

ひかり電話に対応しバックアップ機能装備 通信系販売店もVLAN提案が容易に

「オールインワン」がセールスポイントの日立電線のIP-PBX「AquaVocal」。06年7月にはNTT東西の「ひかり電話ビジネスタイプ」にも対応した。アナログポートを複数装備しており、万々に備えたバックアップ回線の収容も可能だ。提案面では、VLANによる音声とデータの「ハイブリッドネットワーク」を提案。全国どこでも対応できるように、全国サポート体制を整えた。

AquaVocalシリーズ



Apresia



「昨今「AquaVocal」の引き合いが急増しており、電話のIP化への流れが加速しているのを肌で感じている」。日立電線・情報システム事業本部情報通信営業統括部FMC営業部国内営業グループの高橋謙氏はこう語る。

従業員10～100人クラスの中小規模オフィス向けIP-PBXであるAquaVocal。IP-PBX機能のみならず、キャリアのIP電話サービスやPSTN、構内のアナログ電話を収容するための内線用等の各種ゲートウェイ(GW)機能、PPPoE機能等を1台に集約した「オールインワン」が最大の特徴だ。

当初は課題だった電話関連の機能数も、通話を保留状態にする「パークボタン」機能等を追加。これ以外の電話関連機能も順次ファームウェアのアップデートにより追加予定だ。さらに、NTTドコモの「N900iL」やauの「E02SA」といった携帯電話/無線LANデュアル端末にも対応済みである。今後も2月13日に発売された「N902iL」や、ソフトバンクテレコムが今春投入する「X01NK」にも対応する予定だ。

AquaVocalへの引き合いにドライブがかかった大きな要因は、06年7月に

図1 AquaVocalの接続イメージ

